

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 青山 舞
所属 (School) 地域保健学域 看護学類
学年 (Grade) 2

留学先 (Name of overseas institution) タイ

留学期間 (study abroad period)
2019/2/12~2019/2/17

記入日 (Date) 2019/2/18

留学レポート Study Abroad Report

私は、The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions という学会に参加するため、2月12日から17日までタイへ渡航しました。

前年の5月頃に決まったメンバー4人で、Health Care for Older People というテーマに沿ったプレゼンを作成し、本番に臨みました。日本の高齢化社会の現状と高齢者に対するケアの仕組みについて、海外の方はとても興味・関心を持っていると先生からアドバイスを頂いていたため、分かりやすく伝わるよう何度も原稿やスライドを推敲し、読み合わせを行ってきました。



(学会会場の様子)

学会会場についた私はまず、規模の大きさに圧倒されてしまいました。想像をはるかに超える華やかで立派な会場で、様々な国の方々が英語で交流していました。学生は日本人4人、他にはタイやカンボジアから計10人が参加していましたが、タイやカンボジアの学生たちは自国語に加え英語も自在だったため、私は正直なところ、「すごい所に来てしまったな」、「上手くプレゼンできるかな」、「きちんとコミュニケーションがとれるかな」などと不安でいっぱいでした。一方で、学生のうちにこのような貴重な経験ができることを本当にありがたいと思い、後悔のないように自分なりに頑張り、楽しもうと思いました。



(半年間一緒に頑張ったメンバー)

学会では主催の Mahidol Universityをはじめ、Yale University, Johns Hopkins University, University of Michigan, Columbia University, National Taiwan University, University of Washington, University of North Carolina at Chapel Hill, Taipei Medical University, University of Minnesota の学部長や博士のプレゼンを聞くことが出来ました。各国のケアシステムや高齢者の在宅療養、今後の目標だけでなく、スライドの作り方や話し方、学会のマナーなども知ることが出来ました。プレゼンの合間には coffee break があり、沢山の方々とお話ししました。話しかけて下さることが多く、緊張しっぱなしでしたが、何度も話す機会があったので次第に楽しく会話をすることができました。

私たちの発表は学会2日目の最終でした。頑張れと見守られているような和やかな雰囲気の中で、堂々と話せたように思います。日本の高齢者の介護システムやケアについてプレゼンに際し深く学習していたため、Mahidol University の学生と、カンボジアからの留学生のプレゼンでは、日本と比較ができてとても興味深く感じられました。私は、タイにも訪問看護のシステムが整備されていることを初めて知り、驚きましたが、公的な制度化は進んでいないことや地域の差が激しいこと、また看護師資格は大学を卒業しなければ得られないこと、そしてその資格は5年ごとに更新しなければならないことなど、単なるタイ旅行では学べ

ないことをたくさん吸収できました。私の人生初の学会は、達成感に加えあっという間に終わってしまった
さみしさが感じられましたが、兎にも角にも無事に終わりほっとしました。

この学会参加を通じて、私は今回に限らず看護師となってもこのような学会に積極的に参加し、意見
を交換し合ったり、再会を喜び合ったり、様々な国の人々と知り合い自分を高めていきたいと感じましたし、
英語力の上達のための努力も続け今回知り合い連絡先を交換した人とも交流を深めていきたいと思いました。



(先生方とタイ・カンボジア・日本の学生)



(発表後)

院生の方からもプレゼンのアドバイスを頂きました。不安と緊張でいっぱいだった私たちに優しく接して下さい本当に感謝しています。

翌日は Faculty of Nursing, Mahidol University と、Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University 内の博物館を見学させていただきました。

大学見学では看護技術の授業風景を実際に覗かせてもらったり、授業で用いる器具や設備を見たり触ったりしました。私たちも同じことを学習したなと思ったり、一方で見たことのないハイテクな器具が置いてあったりと様々な刺激を受けました。色々な病状に沿った心音や呼吸音、腸蠕動音、心拍や脈拍を実現出来るリアルな人体モデルを用いた的確な判断力と実践力を身につける授業は、現場で即戦力として活躍するのに一番適したレベルの高いものであると感じました。少しうらやましくも思いましたが、設備が整っている点でなくそこで意欲的に学習している学生がほとんどであるという点が良さであると感じました。この日、直接学生さんとお話しする機会はありませんでしたが、学会で話した学生との会話や授業を受けている学生の様子から私の看護に対する努力の少なさや考えの甘さに気づき、もっと積極的に看護を学ぶべきだし、もっと様々なことに興味を持って自主的に行動をしなければならないと強く感じるようになりました。このことは、前日までの学会でも感じていたため今回の研修で得た大きな目標の一つとなりました。

自由時間には、タイの観光地巡りをしました。タイに訪れたのが初めてなのと、帰国して数日後に病院実習が控えていることに対する様々な不安によりタイを満喫するのは難しいかと考えていましたが、頼もしいメンバーとカンボジア人の友達のおかげで、心から楽しむことができたとともにタイの文化に触れることができました。

最後になりましたが、この学会参加に際して何も分からなかった私たちに半年間プレゼンの準備から様々な連絡まで、細やかなサポートをして下さった先生、手続きや書類など必要な手配をして下さったスタッフの方、滞在中何から何まで頼らせて頂いた先生方、学会の参加を応援してくれた家族、そしてずっと一緒に頑張ってきたメンバー、皆様の手厚いご支援によりこのような有意義な時間を過ごせたことを心から感謝しております。本当にありがとうございました。

